

ヨハネによる福音書 2章 I~I2 節

「三日目に・・・最初のしるしを」

自分が同じようなことをしているという自覚がまったくないのです。

——ある高校生の言葉（朝日新聞「天声人語」）

言葉が
深い
のではなく
生き方が
深いのである
——ある地方女性の五行歌（朝日新聞「さんさんネット」）



ぶどうしゅ
葡萄酒なきところに、喜びなし。

——ユダヤ教教師の言葉

林 竹二

はやし たけじ

1906～1985 年

哲学者、教育学者、教育実践者
元・宮城教育大学学長

私はかつて、田中正造のような人においては、一つの事を学ぶということは、その事において自分が新たに造られるということだと書いたことがある。学ぶということは、田中正造の師・・・新井奥邃（あらい・おうすい）の理解にしたがえば、自己を新たにすること・・・であった。



田中 正造

たなか しょうぞう

1841～1913 年

明治の政治家、衆議院議員

足尾銅山鋳毒事件で、天皇に
直訴

公害と治水の問題に生涯を捧
げた

この時に当たりては、断じて古きを捨てて、新鮮なる宗教〔新井奥邃のもとで知ったキリスト教〕を以ってするの外、この国民を救出すべき道なし。

清水 恵三

しみず けいぞう

1931～1987年

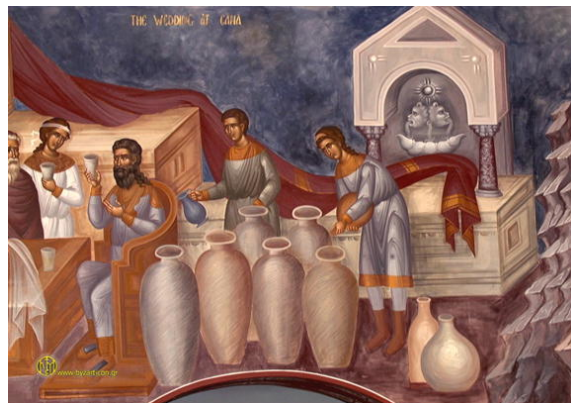
日本キリスト教団の牧師

農村伝道神学校の教師、校長

代理も務める

全く虫がいい話ですが、強いて言えば、感謝できない私を受け入れて下さっているように思えて、嬉しがっているのです。・・・パウロが「今では神を知っているのに、否、むしろ 神に知られているのに」と言い換えたように、神さまは私たちの知る対象ではなく、私たちを知って下さっている主体なのだという事を本当に嬉しく思います。

無理をして・・・感謝しなくてもいいんだと思ったとたんに、感謝の思いがぞくぞくと湧いて来ます。・・・何かしたくなって来ます。それほどうまくはいかないにしても、精一杯生きたいものです。



ソクラテス

前470年頃～前399年

古代ギリシアの哲学者

対話を通し、善く生きること

を論じた

〔無知の知〕

私は何か つぎのようなことを経験したのです。すなわち・・・われわれのうちのいずれも 美にして善なることについては何一つ知らないようなのですが、しかし・・・知らないくせに何か知っていると思っているのに対して、私のほうは、実際、知らないとおり そのままに、知っていると思ってもいない・・・つまり 私は自分が知らないことについては、それを知っていると思ってもいないという点で、知恵があるように思えたのです。

・・・知らないことを知っていると思いこんでいることが、どうして無知、それも最も恥ずべき無知でないことがありましようか。

初めに、神は天地を創造された。

(創世記 1 章 1 節)

人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。

(ヨハネによる福音書 3 章 3 節)

世話役はぶどう酒に変わった水の味見をした。

(2 章 9 節)

三日目に・・・

イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行って、
その栄光を現された。

(2 章 1、11 節)



新しいぶどう酒は、新しい革袋に。

(マタイによる福音書 9 章 17 節)